

SSAレーダーの 実測調査の結果について



令和7年2月
防衛省

実測調査の概要

■ 「実測調査」の概要は次のとおりです。

目的

SSA(注)レーダーから電波を放射し、その強さ(単位mW/cm²)を実測することにより、**電波法等の基準を満たすものであることを確認**する。

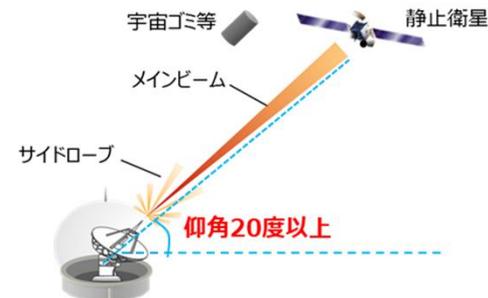
※ 事前にシミュレーションした結果、6式全てのレーダーから同時に電波を送信した場合、地表で**最もサイドローブの電波が強い場所はレーダーの真下で、その場所における電波の強さは0.23mW/cm²以下**となりました。この値は、人体に影響を及ぼさないための基準値(電波防護指針の基準)である**1 mW/cm²の4分の1以下**となっています。

(注) SSA(宇宙状況把握) : 宇宙物体の位置や軌道等を把握すること。

時期

① 令和6年7月17日(水)～23日(火) (土日を除く)

② 令和7年1月7日(火)～9日(木)



(注) 電波発射イメージ

実施者

航空自衛隊

※測定作業は、防衛省が委託した上記①の期間については富士通ディフェンス&ナショナルセキュリティ株式会社及び②の期間については株式会社モバイルコミュニケーションズが実施(一般競争入札により委託事業者を決定。測定に係る仕様は同一)

実測方法

総務省が示す「電波防護のための基準への適合確認の手引き」に基づき、スペクトラムアナライザー(測定用空中線受信した電波の強度を測定するもの)並びに電界強度計及び電界プローブ(電波の強度を測定するもの)を使用し、各地点において実測を行いました。

実測調査の結果

- 設定した8か所において実測調査を行った結果、全ての地点において、**人体に影響がないよう定められた電波法等の基準値（電力束密度：1mW/cm²）以下**となりました。
- レーダーに最も近い実測地点㊦が最も電波強度が高いという結果でしたが、その値についても基準値の**約千分の一**というものでした。
- 距離が離れるほど強度が弱まる電波の特性から、基地の周辺において電波法等の基準値を超えることは見込まれません。



実測調査結果

実測地点	実施日	実測値 (mW/cm ²)
ア	R7/1/7	0.00013981632
イ	R6/7/22	0.00000018139
ウ	R6/7/23	0.00000274253
エ	R7/1/7	0.00104641549
オ	R7/1/9	0.00000011151
カ	R7/1/8	0.00000000003
キ	R7/1/9	0.00000000574
ク	R7/1/8	0.00000111887